

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 火4	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間の科学(科学技術と学校教育) Human Sciences (Science, Technology and Education)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:山路裕昭 /Eメールアドレス:yamaji@nagasaki-u.ac.jp /研究室:教育学部415号室 /TEL:095-819-2339 /オフィスアワー:火曜日10:30~12:00, 13:00~14:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい:科学技術の発達と人間社会や文化, 人間のものの見方・考え方等との関連について理解し, 科学技術の発達に対する自らの考えを持つこと。</p> <p>授業方法:講義とともに, 適宜課題を与え, それに基づく発表や討論を行う。</p> <p>授業到達目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人間の文化や社会の在り方, 人間のものの見方・考え方などが科学技術の発達に与えた影響例を学校教育にかかわって具体的に示すことができる。</li> <li>○科学技術の発達が人間社会の在り方や文化, 学校教育, 人間のものの見方・考え方に与えた影響例を学校教育にかかわって具体的に示すことができる。</li> <li>○科学技術の発達に対して, 自分の考えを持つことができる。</li> <li>○主体的に調べ, 適切に表現し, 積極的に討論に参加することができる。</li> </ul>			
<p>授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要):産業革命, 工業化社会, 脱工業化社会, そして高度情報化社会等における学校教育を概観しつつ, 科学技術の発達や社会, 経済からの要求が教育や人間のものの見方・考え方に与えた影響を具体的に検討する。さらに, 自然環境保全, 科学技術の在り方, 現代社会とエネルギー利用, 生命倫理の問題等を取り上げ, 教育においてどのような対応がなされようとしてきたかを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回:オリエンテーションー授業の目標と今後の計画ー</li> <li>第2回:産業革命と学校ー庶民のための学校ー</li> <li>第3回: 同 上 ー実用と教養ー</li> <li>第4回:工業化社会の発展と学校ー大量消費と知識詰め込み教育ー</li> <li>第5回:戦争と学校ー第二次大戦中の教育ー</li> <li>第6回:脱工業化社会と学校ー個性化と情報化ー</li> <li>第7回: 同 上</li> <li>第8回:高度情報化社会と教育ーIT革命と教育ー</li> <li>第9回: 同 上 ー情報モラルー</li> <li>第10回:国際化社会と学校ー国際化と国際理解教育ー</li> <li>第11回:環境, エネルギー問題と学校ー環境教育とエネルギー教育ー</li> <li>第12回:生命倫理と学校ークローンと命の教育ー</li> <li>第13回:総合的な学習とクロスカリキュラム</li> <li>第14回:科学, 技術, 社会と教育</li> <li>第15回:科学技術と私たちーまとめー</li> </ul>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	適宜, 教材用のプリントを配布する。		
成績評価の方法・基準等	<p>最終試験(50%), 課題に対するレポート(25%), 授業への参加(討論等)の状況(25%)</p> <p>内容的には次の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の文化や社会の在り方, 人間のものの見方・考え方などが科学技術の発達に与えた影響例を学校教育にかかわって具体的に示すことができる。(30%)</li> <li>・科学技術の発達が人間社会の在り方や文化, 学校教育, 人間のものの見方・考え方に与えた影響例を学校教育にかかわって具体的に示すことができる。(30%)</li> <li>・科学技術の発達に対して, 自分の考えを述べることができる。(20%)</li> <li>・主体的に調べ, 適切に表現し, 積極的に討論に参加することができる。(20%)</li> </ul>		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			